

沖縄県立中部病院 内科・総合診療

沖縄県立中部病院 内科研修プログラム

沖縄県立中部病院は、約50年前から続く臨床研修制度を有し、連携施設である沖縄県北部・離島の中核病院との深い連携のもと、総合内科的な幅広い能力を兼ね備えた内科医を多く育成し、修了生は国内外で活躍しています。

新専門医制度開始後も、これまでの伝統を残しながら、さらに進化した研修プログラムを目指しています。プログラムは3年間で、そのうち2年は中部病院、1年は連携施設となります。

基幹施設である沖縄県立中部病院では、各 subspecialty のローテーションに加えて、外来専従指導医のもとでの総合内科外来研修や、屋根瓦方式での内科救急当直研修を行うことで、常に内科全般の症例を経験できる仕組みがあります。また、指導医、先輩研修医から指導を受けるだけでなく、全国から集まる初期研修医、医学生とともに、自らも教えることで多くを学べます。各種カンファレンス、レクチャーも豊富で、ハワイ大学など北米からのコンサルタントによる直接指導も定期的に行われます。なお、3年間の研修中に subspecialty 研修としても経験できるように、研修プログラムの調整も可能です。

主な連携施設である沖縄県立北部病院、宮古病院、八重山病院は、いずれも300床前後を有する地域中核病院です。内科医としての基礎力を仕上げる格好の研修の場となり、医師としても大きく成長できる環境がそこにはあります。

近年は、専門研修から当院での研修を開始する方が増えており、このような他流試合が刺激となってさらに研修の質が高まっています。興味を持たれた方、ぜひ見学をお待ちしています。

連絡先：沖縄県立中部病院 総合内科 尾原 晴雄 haruo.obara@gmail.com

沖縄県立中部病院 総合診療プログラム(島医者養成プログラム)

沖縄県には16の県立離島診療所があります。島の人口は1000人前後、診療所に勤務するのは医師ひとり、看護師ひとり、事務員ひとり、といった構成です。このプログラムは、後期2年間の研修の後、離島でたったひとりの「島医者」になるべく、プライマリ・ケア研修をしっかりと行うためのものです。

島で起こりうるすべての医療に関わる問題に対応することが求められます。従って、後期研修は、外来診療の質を高め、地域を意識したものであり、また内科、小児科や整形外科、皮膚科など幅広い診療科での研修を行うものになっています。また、1学年で5～6名の研修医が在籍する日本で最大規模の日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療研修プログラムであり、多くの仲間や先輩、後輩とともに学ぶ環境にあります。

〈専攻医が行う3年間のカリキュラム〉

- ◆ 卒後3年目 県立中部病院で研修
- ◆ 卒後4年目 総合診療研修Ⅱ：県立北部病院、宮古病院、八重山病院で
- ◆ 卒後5年目 総合診療研修Ⅰ：離島診療所
(医師一人体制の診療所、指導医のサポートあり)

連絡先：沖縄県立中部病院 総合診療科 本村 和久 motomura.kazuhisa@gmail.com